



令和2年(2020年)第32週 2020年8月3日(月)~2020年8月9日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●ヘルパンギーナが警報レベルになりました!!

2020年第32週(8月3日~9日)に熊本市小児科定点医療機関から報告された定点当たりの患者数が7.63人とヘルパンギーナの警報レベル基準の6.0人を超え、警報入りしました。2013年以降では、一番多く報告されています。

ヘルパンギーナの多くはコクサッキーウイルスやエコーウイルスなどのエンテロウイルスの感染によって、口の中の粘膜に小さな水ぶくれ(水疱)ができる感染症です。4歳以下の感染がほとんどで、1歳が1番多い傾向にあります。

◆どんな病気？

・**症状**………突然の発熱(38~39℃)に続いて、のどが赤く腫れて痛み、口の中の粘膜に直径1~2mmほどの小さな水疱ができます。

水疱が破れて浅い潰瘍になると痛みを伴います。

・**潜伏期間**…2~4日程度

・**感染経路**…感染者のくしゃみのしぶきや鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって感染します。症状がなくなったあとも、2~4週間は便の中にウイルスが排泄されます。

◆かかったらどうすればいいの？

・ほとんどの場合、特別な治療は必要なく自然に治りますが、まれに髄膜炎や心筋炎を合併することがあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。

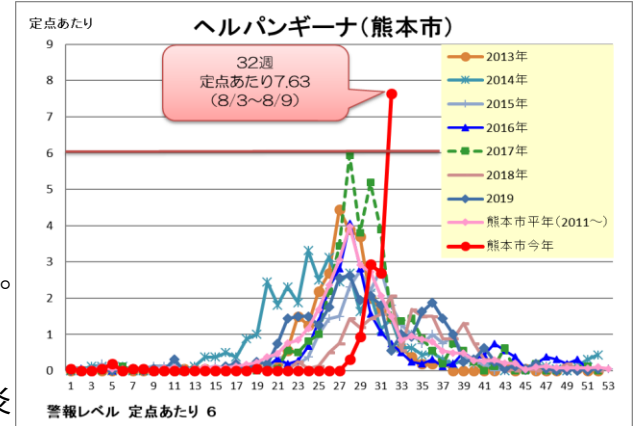
・口の中を痛がって、水分や食事がとれなくなることがあります。

薄味でやわらかいもの、白湯やスポーツ飲料などをこまめにとらせ、脱水にならないようにすることが大切です。



◆予防法は？

・手洗いが基本です。特に感染者の排便後の手洗いが重要です。感染している子どものおむつを取り替えたり、鼻水をとったりした後は、しっかり手を洗いましょう。



期 間		2020年 31週		2020年 32週	
		7/27~8/2		8/3~8/9 (最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	0	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	5	0.31	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	12	0.75	7	0.44
感染性胃腸炎	➡	20	1.25	28	1.75
水痘(みずぼうそう)	➡	6	0.38	7	0.44
手足口病	➡	4	0.25	10	0.63
伝染性紅斑(りんご病)	➡	1	0.06	0	0.00
突発性発しん	➡	6	0.38	15	0.94
ヘルパンギーナ	⬆ 警報レベル	43	2.69	122	7.63
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	15	3.00	3	0.60
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00